

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度		科目名	実習 3	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	M A エンジニア専攻		開設期	前期
対象年次	2 年次		科目区分	必修		時間数	120時間
単位数	4単位		授業形態	実習			
教科書/教材							
担当教員情報							
担当教員	榎本、山本			実務経験の有無・職種	有・エンジニア		
学習目的							
エンジニア、サウンドクリエイターとして映像・放送業界を目指す学生の即戦力、応用力を伸ばすための実践的な実習。映像・放送業界の仕組み流れを理解し、作品制作の過程を実際に体験することで、公開されている作品により深い興味を持ち、研究していくことが出来るように進め、現場に近いスピードも身に付ける目的で行う。							
到達目標							
エンジニア、サウンドクリエイターとしての映像・放送業界でのProTools（ソフトウェア）の使い方ができる。作品の音響制作においての基礎知識を養い、現場に出てから活躍するために必要な能力を具体的にイメージする。社会や組織で協働することの重要性を理解することができるようになることが目標である。							
教育方法等							
授業概要	作品制作を通し撮影から編集、MAと映像作品、放送業界の仕事の流れを理解、映像作品に対して効果音、選曲、整音、ミキシングなどの役割を決めグループで作品を完成させる。また、完成した作品は全員で評価し自分の意見を発表することにより人に伝える力を養う。						
注意点	この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、実習中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。グループ作業に於いて積極的ではない学生に対して、社会に出た際の協働の必要性を伝え、積極的な参加を促すことが必要となる。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	35%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	35%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	スタジオセッティング 1			スタジオ収録のセッティングができる。（SSL）			
2 回	スタジオセッティング 2			スタジオ収録のセッティングができる。（Avid S6）			
3 回	ProTools設定			スタジオ収録におけるProToolsの基本操作ができる。			
4 回	基本の設定			スタジオ収録におけるProToolsの基本設定ができる。			
5 回	エフェクター 1			外付けのエフェクターが使える。			
6 回	エフェクター 2			ProTools内のエフェクターが使える。			
7 回	作品制作1			イメージ映像等1分映像素材の整音およびSE、ME選定制作ができる。			
8 回	作品制作2			イメージ映像等1分映像素材のSE（フォーリーを含む）、MEの仕込みができる。			
9 回	作品制作3			イメージ映像等1分映像素材のSE、MEの編集ができる。			
1 0 回	作品制作4			イメージ映像等1分映像素材のミキシングができる。			
1 1 回	視聴会			自分のミックスのプレゼン、他の人のミックスの評価ができる。			
1 2 回	ラウドネス			ラウドネスの概要の理解できる。			
1 3 回	作品制作 5			ドラマ等 5 分映像素材の整音およびSE、ME選定制作ができる。			
1 4 回	作品制作 6			ドラマ等 5 分映像素材のSE（フォーリーを含む）、MEの仕込みができる。			
1 5 回	作品制作 7			ドラマ等 5 分映像素材のSE、MEの編集ができる。			

授業計画（１６回～３０回）

回	授業内容	各回の到達目標
１６回	作品制作 8	ドラマ等 5 分映像素材のミキシングができる。
１７回	作品制作 9	ドラマ等 5 分映像素材のミキシングができる。
１８回	視聴会	自分のミックスのプレゼン、他の人のミックスの評価ができる。
１９回	作品制作 1 0	アニメ等の MA 作業の準備ができる。（台本等）
２０回	作品制作 1 1	アニメ等の MA の SE、ME の準備ができる。
２１回	作品制作 1 2	アニメ等の MA の SE（フォーリーを含む）、ME の仕込み、編集ができる。
２２回	作品制作 1 3	出演者を呼んでの収録作業（アフレコ）ができる。
２３回	作品制作 1 4	セリフ等の編集ができる。
２４回	作品制作 1 5	アニメ等のミキシング作業ができる。
２５回	視聴会	自分のミックスのプレゼン、他の人のミックスの評価ができる。
２６回	サラウンド 概要	サラウンドの概要、運用 セッティング概要
２７回	サラウンド 視聴 1	Bスタジオにおけるセッティングと視聴 ができる。
２８回	サラウンド 視聴 2	Cスタジオにおけるセッティングと視聴 ができる。
２９回	前期まとめ	MA 作業に必要な準備、セッティング、設定ができる
３０回	ディスカッション	卒業制作に向けての準備ができる。

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	実習 3	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	レコーディングエンジニア専攻		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	1 2 0 時間
単位数	4 単位		授業形態	実習			
教科書/教材	必要な場合は授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	新保 正博、小林 勝行			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア		
学習目的							
スタジオワーカー連をこなせるよう、機材の選定とセッティング、ミックスを実践していく。まずは学内スタジオのミクサー卓の流れを完全にし、現場に就職した際システムの違いをいち早く理解し、現場に合わせた対応が出来るようにしていく。またエンジニアリングの目的は良い音である。良い音とは何か、自分で発見し、体験して行く事がなければ、形式だけの音となってしまうので、可能な限りのマイクの取扱方法に熟知し、楽器側の状態も考慮に入れた音作りが出来るようになることが大事である。また、音を言葉で解説する力も身につける。							
到達目標							
マイクロフォンの適切な使い方をマスターする。現場さながらのスタジオワークを通して、準備、セッティング、チェック、音作り、レコーディング、オーバーダビング、ミックスといった様々な項目をグループワークを通して、各々の役割も把握する。またエンジニア以外のスタッフ、ミュージシャンとも適切なコミュニケーションが取れる。楽器やアーティストの声を聞き分けて適切なエフェクト処理を行い、2ミックスを完成させる。仕事全体の流れを円滑にできるよう、アーティストの意思を先読みし、コミュニケーションが適切に取れるようになることも目標である。							
教育方法等							
授業概要	必要に応じてプリント資料を適時配布する。アーティストに来校してもらい実習する際はアーティストの立場や作りたい音をよく考え、アーティストに信頼されるエンジニアになるための態度も学ぶ。						
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	0%					
	小テスト	0%					
	レポート	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～30回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	デジタル卓復習			AXIOM MTの操作方法を通してデジタル卓について復習し、操作できる。			
2 回	マイクロフォンの確認			学内にあるマイクロフォンの機能と種類がわかる。			
3 回	ドラムのサンプリング音源をつくる			様々なマイク、セッティングにより、単音を収録できる。			
4 回	アナログ卓復習			スタジオのアナログ卓の操作方法について復習し、操作できる。			
5 回	ピアノの音を比べる			様々なマイクセッティングにより、ピアノのを収音し、聞き比べができる。			
6 回	ミキサー卓全般の確認			デジタル、アナログ両方の概念、操作方法が解る。			
7 回	マイクロフォンの紹介ビデオ撮影			ドラムとピアノに合わせたメーカー別、目的別に班分け、自分のベストセッティングができる。			
8 回	リズムセッティング1			バンドレコーディングのセッティングがスムーズにできる。			
9 回	アーティストの立場を研究			モニターの研究。アーティストに合わせたモニターづくりができる。			
1 0 回	CD試聴会			教員、学生とも良い音のCDをお互いに試聴し、プレゼンできる。			
1 1 回	リズムセッティング2			セッティングと回線チェックが素早く、正確にできる。			
1 2 回	バンドセッティング復習			4リズムのセッティングを細かく考察する。グループごと素早くセッティングができる。			
1 3 回	ボーカルダビングセッティング			指定された音源へスムーズにボーカル録音ができる。			
1 4 回	セッティングタイムトライアル			前回の復習を元に、より早くきれいにセッティングできる。			
1 5 回	ボーカルダビング・エディット			録音したボーカルを整音できる。			

授業計画（１６回～３０回）

回	授業内容	各回の到達目標
１６回	ギターの音作り	エレキ、アコースティック、様々なマイク、録りかたがわかる。
１７回	ギターの音作り	ギターの音のエフェクトを駆使して音作りできる。
１８回	R科バンドレコーディング	フォーリズムのレコーディングができる。
１９回	ドラムの音作り	ドラムの音のエフェクトを駆使して音作りできる。
２０回	R科バンドレコーディング	録音データのエディット、ミックスができる。
２１回	エフェクター	多様なエフェクターを使った音作りができる。
２２回	リバーブ研究	サンプリング音源を元に様々なリバーブの音を聞き分けることができる。
２３回	ピアノの音作り	ピアノの音のエフェクトを駆使して音作りできる。
２４回	コンプレッサー・リミッター研究	サンプリング音源を元に様々な音を作ることができる。
２５回	エフェクター２	多様なエフェクターを使った音作りができる。
２６回	エフェクター解説ビデオ作成	各自のレポート代わりに作成。
２７回	まとめと試聴	前期のまとめ、各自も持ち寄った音源、音の取り方についてプレゼン、試聴。
２８回	レコーディング	楽曲レコーディングがスムーズにできる。
２９回	オーバーダビング	録音された音源へ様々な音を適切にオーバーダビングできる。
３０回	MIXDOWN	各楽器音の関係を考慮しながらミックスダウンできる。

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	実習 3	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	ラジオスタッフ専攻	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	120時間
単位数	4単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	飯村聖美		実務経験の有無・職種	有・ディレクター	
学習目的					
ラジオ番組制作に必要な不可欠な技術を身に付けることを目的とし、常に自分本位ではない番組制作を意識し、ラジオ以外のメディアへの展開も視野に入れながら、ラジオ放送局の放送基準に基づいた番組制作の実習を行う。特に金曜日はラジオの生放送ワイド番組に適応した技術と知識、番組制作へのアプローチ方法を体得することを目的とし、スタジオ作業だけでなく、街頭インタビューなども行い、外部の意見を通してリスナーの考えや動向に実感を持ちながら番組制作に取り組む。バラエティに富んだコンテンツの制作とともに、リスナーに役立つ情報を提供することも強化。国内外の社会情勢、経済状況、新技術の開発からゴシップ、身の回りの小さな事まで常にアンテナを張り、番組制作に反映すること身につける。必要に応じて校外の取材も敢行。常にフレキシブルに動けるラジオ制作スタッフの素地を作る。					
到達目標					
オリジナルの番組企画の立て方や企画書、台本の制作方法を学び、実際にデジタル・スタジオでの収録や校外を含む取材、実験収録、そして豊富な音源とサンプラーやPro ToolsまたはAuditionを使用した音源編集による素材作りののち、DENON業務用CDプレイヤー、YAMAHAデジタルコンソールQ2Rなどを使用したミックス、選曲と音の演出方法など、ラジオ番組を制作する上で必要な力を身につけることを目標とする。特に金曜日はラジオ放送局に求められる情報の正確さと責任、コンテンツの強さを意識した番組制作をするために、情報収集・リサーチ、取り分け、街頭インタビューや専門家など、特定の人へのインタビューの仕方や録音技術のノウハウを身につけ、短時間で音源を編集し、番組として具現化できることを目標とする。					
教育方針等					
授業概要	技術的にはミキサー卓のフェーダーの上げ方のコツや出演者、スタッフへのQの出し方など、現場で要求される細かな手業からサウンド・ステッカー制作、ナレーション収録、Pro ToolsまたはAuditionなどを使用したナレーション編集・楽曲編集を経て、それらをミックスした完パケまでの過程を学び体得する。また具現化するためのWordやExcelでの台本制作、見横書作成などにも慣れ、出演者とのコミュニケーション能力も高める。				
注意点	この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。普段から、音楽を流し聴きにとどめず、仕事の結果としての作品として鑑賞、分析、研究する習慣をつけておくこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	20%	試験と課題を総合的に評価する		
	校外実習	20%	校外の実習で行われる実技について評価する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～30回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	トーク・テーマの考案		番組のコンセプトを想定し、番組展開を考慮した魅力的な番組トーク・テーマを考案できる。		
2回	一つの楽曲の構成や背景の理解		楽曲の構成や楽曲制作の背景を理解した上で番組内で楽曲紹介ができる。		
3回	リスナーメールの作成		テーマにそったリスナーメールの例をwordで作成し、掘り下げる方向性を提案できる。		
4回	放送での楽曲のミックス、繋ぎ方		ミキサー卓等のフェーダーを使い、楽曲の終わり方と次の楽曲の始まり方の演出の基本ができる。		
5回	街頭インタビューまたは取材①		テーマにそって街頭インタビューや取材をし世の中の動向に実感を持ちながら番組素材作りができる。		
6回	楽曲編集①		番組の演出に合わせて楽曲をPro ToolsまたはAuditionなどで短く編集できる。		
7回	音源編集と発表①		Pro ToolsまたはAuditionなどで取材音源を編集し、取材から浮彫りになった事を発表できる。		
8回	楽曲編集②		番組の演出に合わせて楽曲をPro ToolsまたはAuditionなどで巧みに編集できる。		
9回	街頭インタビューまたは取材②		1回目の街頭インタビューや取材を受けて更に明確な方向の取材でテーマを掘り下げる事ができる		
10回	一曲から生まれる番組企画①		課題曲から企画し、台本を書き、3分番組を制作・発表できる。（A）		
11回	音源編集と発表②		番組のコンセプトや演出に合わせ取材音源を編集できる。		
12回	一曲から生まれる番組企画②		課題曲から企画し、台本を書き、3分番組を制作・発表できる。（B）		
13回	構成と台本制作		番組の時間枠を有効に使うために音楽やトークの展開を考え構成し台本を書く事ができる。		
14回	一曲から生まれる番組企画③		自身で選曲した楽曲から企画し、台本を書き、3分番組を制作・発表できる。（A）		
15回	選曲		番組コンセプトにそった選曲をし、楽曲の構成を理解した上でその魅力を存分に伝える事ができる。		

授業計画（１６回～３０回）		
回	授業内容	各回の到達目標
16回	一曲から生まれる番組企画④	自身で選曲した楽曲から企画し、台本を書き、3分番組を制作・発表できる。（B）
17回	選曲	番組コンセプトにそった選曲をし、楽曲の構成を理解した上でその魅力を存分に伝える事ができる。
18回	課題から企画案を考える	条件付きの課題から各自が企画案を立て提案できる。
19回	模擬番組の実演①	25分の生放送を想定した模擬番組を制作し、Qシートを制作できる。
20回	企画案を具体化するための方法論	企画案を実際の番組にする為に必要なことや方法を議論できる。
21回	模擬番組の実演②	25分の生放送を想定した模擬番組を、演出を加えて制作し、Qシートを制作できる。
22回	企画書や出演依頼書の作成	Word,Power Point,Excelその他のソフトを使い企画書や見積書が書ける。
23回	コーナー企画案①	番組コンセプトにそって魅力的なコーナー企画を提案し、必要な素材をリストアップできる。
24回	オリジナル企画案を考える	各自がオリジナル企画案を立て提案し、実際に番組化する案を選出できる。
25回	コーナー企画の素材作り①	企画に応じて取材や録音の手配をし、素材制作ができる。
26回	出演者や取材先のブックイング(1)	企画案を実際の番組にする為に必要なことや方法を議論する。
27回	コーナー企画案②	リスナーターゲットを絞り、役立つ情報を提供するコーナーを企画、提案できる。
28回	出演者や取材先のブックイング(2)	Word,Power Point,Excelその他のソフトを使い企画書や見積書を作成する。
29回	コーナー企画の素材作り②	収集した情報や取材を元に必要なナレーションを収録しコーナーを制作できる。
30回	まとめ	全体のまとめ、各自が制作したコーナーの試聴会